

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成20年2月21日

【評価実施概要】

事業所番号	272300898
法人名	社会福祉法人三笠苑
事業所名	グループホーム大鰐温泉保養館
所在地	南津軽郡大鰐町大字大鰐字湯野川原8-4 (電話) 0172-47-5006
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年10月4日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.5人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	～ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	理美容代2,000円/回 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		円	

(4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	71 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	かせだ内科クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

温泉街の中心部で、昔からの住民が多い地域に立地しているホームである。「一日を家庭的で落ち着いた雰囲気の中で暮らしていただきます」という理念を掲げており、利用者の知人や近隣の住民たちが気軽にホームに遊びに立ち寄り、ボランティアの方々が歌を披露しに訪問するほか、保育園児との交流を定期的に図る等、地域に開かれたホーム作りが行われている。また、温泉地という利点を活かし、気分転換や歩行訓練を兼ねて近所の足湯や散歩に出かけるほか、道の駅やショッピングセンターにも出かける等、積極的に外出の機会を作っている。

法人として職員の資質向上に積極的に取り組んでおり、年間研修計画を作成して法人内研修を実施したり、外部研修に職員を派遣している。また、地区のグループホーム協会に加入する等、同業者との情報交換を行う機会が確保されており、得られた気づき等は職員の資質向上につなげるとともに、日々のケアで実践するよう努めている。

【特に改善が求められる点】

地域に根ざしたケアを提供していくことを理念に盛り込む予定なので、早期の取り組みに期待したい。

虐待や身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供しているが、虐待を発見した場合の対応方法や、やむを得ず拘束を行わなければならない場合の理由等の記録様式が整備されていないので、作成に向けて検討することに期待したい。

重度化や終末期のケアに対応しており、医療機関や家族等との意思統一が図られているが、利用者や家族により分かりやすいよう、ケアの指針として明記されたものを整備してはどうか。

災害時に備えて避難訓練等は行われているが、数日分の食料や飲料水、防災具セット等を少しずつでも用意していくことに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を職員会議等で話し合っており、職員間で共通理解を図りながら改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は評価の意義等を理解している。月1回の職員会議や普段のミーティング等で自己評価項目の取り組み状況について話し合っており、今後のケアに活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には町内会長や民生委員、行政担当者等が参加しており、日々の取り組みや自己評価への取り組み、外部評価の結果等を報告するとともに、委員に意見を出してもらえよう働きかけしている。委員から出された意見は、地域住民のホームや認知症に関する更なる理解促進につながるよう活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会時や写真等を掲載したホーム便りなどを活用し、暮らしぶりや金銭管理状況等を定期的に家族に報告している。家族との信頼関係が築かれていることもあり、意見箱は設置しているが、家族は直接口頭で苦情や意見をホームに伝えている。家族から意見等が出された時には職員間での共有を図るとともに、サービスの改善・向上につながるよう取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入する等の取り組みにより、知人や住民が気軽にホームに立ち寄り、玄関前のベンチで会話する等の良好な関係が築かれている。また、利用者のプライバシーに配慮した上で、老人クラブや保育園児との交流を定期的に図るほか、ボランティアの受け入れ等も行っており、地域に開かれたホームとなっている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者は、職員会議やミーティング等で全職員への理念の周知に努めており、職員は常に理念を念頭に置きながら、日々のケアを提供するよう努めている。</p> <p>法人内研修等を通して地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の概要について理解を深めている。また、成年後見制度を利用している方もおり、必要な支援を行う体制が整えられている。</p> <p>職員の異動時に利用者に与える影響を少なくするために、全職員が全利用者を担当できる勤務体制を取っている。また、異動時にはこれまでの職員と新任の職員が一緒にケアを提供しながら引継ぎを行う等の対応を行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者や家族が安心してサービスを開始できるよう、管理者が中心となって利用者や家族の意向把握に努めている。</p> <p>利用者一人ひとりの生活習慣や得意なこと等を把握しており、掃除や洗濯、料理、編み物、裁縫等の得意なことには力を発揮してもらいなど、利用者と職員が協同して生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者及び家族の意見や要望を把握するとともに、ケアカンファレンスで話し合い、個別具体的な介護計画を作成している。また、計画は基本的に3ヶ月に1回の見直しを行っており、評価や再アセスメントを行った上で新たな計画を作成している。</p> <p>入居前からのかかりつけ医での受診を支援するほか、訪問看護師の健康観察を受ける等、医療面についていつでも相談できる体制が整えられている。また、重度化や終末期のケアに対応しており、同法人の訪問看護ステーションや老人保健施設との連携体制も整備されている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者一人ひとりの生活歴や性格、行動パターン等を把握しており、個々の生活リズムを大切にケアを提供するよう努めている。</p> <p>同法人の栄養士が一日に必要なカロリーや栄養バランスを考慮して献立を作成するほか、誕生日には本人の好きなメニューを取り入れる等、健康面に配慮しながらも楽しんで食事が摂れるよう工夫している。</p> <p>共用空間には家庭的な調度品を置くほか、利用者と職員が一緒に手作りした季節感のある装飾品を飾る等、落ち着いた空間作りが行われている。また、使い慣れた物の居室への持ち込みは自由であり、テレビや冷蔵庫、位牌等の馴染みの物が持ちこまれている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が家庭的な雰囲気の中で安全に安心して暮らせるよう支援したいという考えの下、「一日を家庭的で落ち着いた雰囲気の中で暮らしていただきます」という理念を掲げている。地域でより良く暮らせるよう、日頃から住民との関わりを大切にサービスを提供しているが、それを盛り込んだ理念とはなっていない。	○	職員会議等で話し合い、地域密着型サービスの役割を反映させた理念を作成予定なので、今後の取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、会議や申し送り、勤務中を通して、常に理念を振り返りながらケアを提供するよう職員に働きかけており、全職員が理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入したり、ホーム行事への参加を呼びかけるほか、玄関前にベンチを置く等、住民に気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気作りを行っており、立ち寄った住民がベンチで利用者と会話するなどの良好な関係が築かれている。また、保育園児との交流を定期的に図ったり、老人クラブや近隣のボランティアが歌を披露するために訪問する等の交流も図られている。外部の人を受け入れる際には、利用者のプライバシーに係る言動には配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義等を理解しており、自己評価には全職員で取り組んでいる。また、前回の外部評価の結果を受けて、全職員が参加する会議で改善点を話し合う等、より良いサービスにつなげるための取り組みが行われている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には家族代表始め、町内会長や民生委員、行政担当者、法人代表等が参加しており、日々の取り組みやホーム内外の行事、評価結果等を報告するとともに、メンバーの意見を引き出すよう働きかけている。議事録が作成されており、メンバーから意見が出された時は今後の取り組みにつなげていく仕組みとなっている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の場を活用して日々の取り組みや自己・外部評価の結果を報告したり、課題がある時には会議を利用して話し合いを行う等の取り組みが行われている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、法人内研修等を通じて理解を深めており、職員は概要を理解している。また、成年後見制度を利用している方もおり、必要な支援を行う体制が整えられている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等を通じて虐待の内容などについて共通理解を図っており、虐待は絶対に行わないという認識で日々のケアを提供しているが、虐待発見時の対応方法等に関する具体的な取り決めを作成するまでには至っていない。	○	全職員で検討する機会を持つ等、虐待を発見した場合の対応方法に関する取り決めを作成することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族が不安や疑問を持ったまま入居しないよう、十分に説明を行い、同意を得ている。また、契約改訂時や退居時にも十分に説明し、退居時には必要に応じて退居先等の情報提供も行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には日々の暮らしぶりや健康状態、職員の異動等について報告したり、緊急時には電話連絡を行っている。また、金銭管理状況は領収書を添付して台帳を確認してもらっている。利用者の暮らしぶりが詳しく分かるよう、写真を掲載したホーム便りを作成する等の取り組みも行われている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時には要望を聞く機会を必ず設けるほか、ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に明示したり、廊下に意見箱を設置する等、家族が意見や要望を話しやすい雰囲気作りが行われている。また、家族から要望等が出された時には、それを日々のケアに反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動時等に利用者へ影響を与えないよう、全職員が全利用者を担当できる勤務体制となっている。異動時には、これまでの職員と新任の職員が一緒にケアを提供しながら引継ぎを行うほか、利用者への説明を行う仕組みとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務上の悩みは運営推進会議のメンバー等が助言を行っている。法人として職員の資質向上に積極的に取り組んでおり、年間研修計画を作成した上で、法人内での定期的な研修会の開催や、職員の力量に応じた外部研修への派遣が行われている。外部研修受講後は詳細な報告書を作成し、会議やミーティング等で全職員に口頭で伝達している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中弘南黒グループホーム協会に加入したり、法人内の他施設と合同で開かれる研修会に参加する等、同業者と意見交換を行う機会が確保されており、得られた気づき等は職員の資質向上や利用者へのサービス向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が安心してサービスを開始できるよう、管理者が中心となって利用者や家族の意向等を引き出している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や裁縫等の利用者が得意なことには力を発揮してもらうとともに、一緒に作業をしたり会話を楽しむことを通して一人ひとりの喜怒哀楽を共感するよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメント等を通して一人ひとりの趣味や生活歴等を把握し、それを基に意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、アセスメントや利用者との日々の関わり、家族からの聞き取り等から個々の要望を把握するとともに、ケアカンファレンスで話し合いを行っており、一人ひとりの特性に考慮された計画となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、3ヶ月ごとに見直しを行うほか、利用者の状態や家族の希望等に変化があった時には随時の見直しを行う仕組みとなっている。また、見直しを行う時には評価や再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の看護ステーションや介護老人保健施設との連携が図られており、医療面についていつでも相談することができる。また、受診する医療機関や献立等には利用者や家族の希望を取り入れる等、個々に応じて柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族が希望する医療機関での受診を支援するほか、週1回の訪問看護師の健康観察を受ける等、いつでも相談できる環境となっている。また、受診結果は電話や面会時等を利用して、随時家族に報告している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに対応しており、かかりつけ医や訪問看護師、家族等との意思統一が図られている。急変時の対応に関するマニュアルは整備されているが、重度化や終末期の対応について明記された指針を作成するまでには至っていない。	○	重度化や終末期のケアについて、利用者や家族にも分かりやすいよう、口頭での意思統一のほか、指針として明記されたものを作成してはどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定しない等、言葉遣いに配慮するとともに、排泄時や入浴時は利用者のプライバシーや羞恥心に配慮している。職員は個人情報保護法について理解しており、外部に出す広報誌には利用者や家族の同意を得た上で写真を掲載する等の対応が行われている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の話には傾聴するよう努めるほか、一人ひとりの生活リズムや行動パターンを崩さないよう、可能な限り利用者の訴えを優先し、日々のケアを提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時のアセスメントや嗜好調査を通して一人ひとりの好みを把握している。また、利用者が自分で食べたいものを買出しに出かける機会も設けている。大根おろし等の簡単な調理や茶碗拭き、テーブル拭き等は利用者と職員が一緒に行ったり、さりげないサポートをしながら職員も一緒に食卓を囲む等、食事を楽しめるような工夫が行われている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉となっており、夜間を除いていつでも入浴することができる。入浴時は一人ひとりの羞恥心や負担感に配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時のアセスメント等を通じて一人ひとりの生活歴を把握しており、個々の力量等に応じて裁縫や調理を促すなど、利用者の意欲を引き出し、役割や楽しみごとにつながるよう支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しのために近所のスーパーに出かけるほか、道の駅やショッピングセンター等に出かけている。また、身体状況やその日の心身の状況にも配慮し、外出支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について理解しており、拘束のないケアを提供しているが、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備え、理由等を記録する様式などは整備されていない。	○	重度化や終末期のケアに対応していることもあり、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えて、拘束の理由や期間、方法等を記録する様式を整備してはどうか。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、外出願望の強い利用者には見守りを行う等、利用者一人ひとりの行動パターンを把握して外出傾向を察知できるよう努めている。察知した時には利用者が納得するまで付き添う等の支援を行っている。また、無断外出時には近所の商店街や民生委員等の協力が得られる体制となっている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間消防計画に従って避難訓練を実施しており、職員が手薄になる夜間を想定した訓練も行われている。災害時に備えて住民や消防署との協力体制が整えられているが、食料や飲料水、寝袋や毛布等の防寒具などは用意されていない。	○	災害時に備え、数日分の食料や飲料水、防災具セット等を徐々に用意していくことに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が献立を作成しており、一日に必要なエネルギーや栄養バランスに配慮されたメニューとなっている。食事や水分の摂取量は概ね把握し、食事摂取量については個人記録表に記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染症に関する予防・対応マニュアルが作成されており、手洗いや調理器具の消毒等を実践している。また、保健所等から随時情報収集しており、必要に応じてマニュアルの見直しを行うほか、ミーティングや全体会議等で感染症に関する理解を深めている。感染症に関する情報は電話等で家族に提供しており、感染症流行時には面会を控えていただくよう促す等の取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には家庭的な調度品が置かれているほか、季節感のある手作り品や絵画、書道等が飾られている。職員の声の大きさやテレビ等の音量、ホーム内の明るさは適当であり、利用者が居心地良く過ごせる空間作りが行われている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の居室への持ちこみは自由であり、テレビや冷蔵庫、位牌等の馴染みの物が置かれている。		

※ は、重点項目。